

みずか
自ら遣る（李白）

封酒不覺暝 落花盈我衣
醉起步溪月 鳥還人亦稀

酒に 対して 暝を 覚えず

解説 心を慰めようと酒を飲み、酔って月の光の射す谷川を歩く。

落花 我が衣に 盈つ

語釈 ※自遣＝みずか自分の心をなぐさめる。 ※暝＝日が暮れること。 ※酔起＝酔眠より醒めること。 ※溪月＝谷間の月。

酔起して 溪月に 歩すれば

通釈 酒と差し向かいでちびりちびりと飲んでいたら、時の経つ

鳥 還つて 人も 亦 稀なり

のも忘れて、日の暮れたのにも気づかなかった。花びらが風に吹かれて落ち、その花びらが、私の衣、一杯に満ちていた。酔った後、眠りから醒めて谷間の月と共に歩くと、鳥は還り、人影も稀であった。